

～活動団体の取組み～

浜名湖で環境に関わる活動をしている団体等の取組みを紹介します。

■日本野鳥の会 遠江

日本野鳥の会は、全国約90支部の一つとして“自然にあるがままの野鳥に接して楽しみつつ、野鳥に関する科学的知識・適正な保護思想ならびに自然尊重の精神を養い、これを普及することによって人間性豊かな社会の発展に資すると共に、会員相互の親睦を図る”ことを目標として活動している団体です。

■調査・保護活動及び探鳥会・野鳥展を開催

伊目小学校での授業

環境省の全国一斉ガンガモ調査・年間を通じての会独自の野鳥モニタリング調査や保護活動を行う他、野鳥の写真や野鳥に関するさまざまな作品を展示する野鳥展なども開催しています。

■地域活動への参画

環境教育の支援や地域活動へ参加し、浜名湖ではガーデンパークの野鳥の観察会、浜名湖の野鳥パネル展に協力し、多くの人に楽しんでいただけたそうです。



浜名湖の水を飲むアオバト

今年の1月には浜松市の伊目小学校で環境教育としてカモの観察会の授業を担当し、浜名湖に飛来する多くの野鳥の観察を通して、浜名湖の環境の豊かさを実感してもらうことができたそうです。

アオバト：山に生息する鳥ですが、夏場浜名湖で塩分を含んだ水を飲みます。浜名湖は大変珍しいアオバトの飛来地（全国に5～6か所）です。会報の発行やホームページで珍しい野鳥の写真を楽しむこともできます。

ホームページアドレスは<http://www.wbsjtm.com>

■EM倶楽部/湖西

「EM土ダンゴ・米とぎ汁EM発酵液」を活用した川・池等の保全、水質改善、学校・園等のプール清掃簡易化などの環境克活動、生ゴミの優良堆肥化や天ぷら廃油の石鹸化などのエコ活動、無農薬・有機栽培による食の安全・健康増などの農業活動をしている団体です。

■新居 浜名川

毎年7月の海の日に、水質改善を目指してメンバーが手作りしたEM団子やEM活性液を投入し、水質検査も継続して行っています。地元幼稚園の園児もEM団子作りに協力してくれています。

■環境学習活動

小中学校や幼稚園のプール終了後の水質保全で子どもたちへの環境学習、EM団子作りの指導を通じた実践活動を行い、地域に根差した活動を行っています。

■湖西市の生ゴミ減量・リサイクル講座

あらい市民農園「楽菜」で、エコ貸農園を運営しています。生ゴミ減量リサイクル堆肥やEMボカシを活用して、野菜の無農薬・有機栽培に取り組んでいます。

興味のある方は見学してみたいかですか。

問合せは代表の疋田さんへ ☎053-594-5486

E-mail: kian@amber.plala.or.jp



環境団体交流会での発表



生ゴミの堆肥化

はまなこ環境ネットワーク 広報誌

はまなこ環境通信

発行／はまなこ環境ネットワーク

発行日／平成28年3月30日

事務局／NPO法人地域づくりサポートネット

浜松市中区常盤町133-13 ☎053-458-3480

Eメール info@shizuoka-t.net

第27号

はまなこ環境保全団体交流会を開催しました！

平成27年度の活動の締めくくりとして、浜名湖流域で活動する環境保全団体、企業等が相互に連携するために団体等の活動を知り、連携の提案をする「はまなこ環境活動団体交流会」を開催しました。

■日時 平成28年2月20日（土）

9：30～12：00

■場所 地球のたまご（OMソーラー社屋）

■内容

●講演 講師：江良弘光氏（NPO法人小網代野外活動調整会議）

演題：「小網代での生物調査の取組みについて」

NPO法人小網代野外活動調整会議は、三浦半島の先端で、「小網代の森と湿地・干潟」の自然を守る活動をしている団体です。講演では、小網代の環境保全活動や生物調査の方法を紹介し、浜名湖の環境調査に関する提案もいただきました。

●エコワークショップ・浜名湖の湖岸状況調査の報告

今年度浜名湖の湖岸や湖内の環境に関する情報収集の方法を検証することを目的に「浜名湖エコワークショップ」を実施しました。エコワークショップで収集した情報や活動内容について、ネットワークの事務局から報告がされました。

日本野鳥の会遠江の増田さんより、野鳥の会の活動と浜名湖に飛来する野鳥を説明し、エコワークショップでの調査データを紹介されました。

●活動紹介

○試食&活動紹介

はまなこ環境ネットワークの「アマモプロジェクト」で栽培した大根の紹介を兼ねて漬物などの試食をしてもらいました。また、「浜名湖のりブランド推進協議会」から提供された浜名湖のりブランドの佃煮などを試食し、活動を紹介してもらいました。

○リレートーク

各自の活動を紹介し、抱えている課題や連携に関する提案などをリレー方式で行いました。

＜発表団体＞

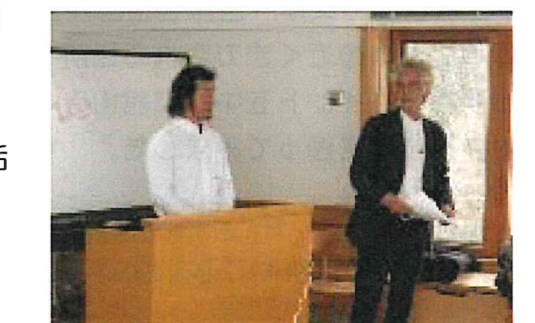
OMソーラー(株)（会場提供者・施設紹介）、浜松地域資源活用研究会：(株)テクノート、たんぼぼの会、NPO法人地域生物資源研究所、EM倶楽部/湖西、NPO法人日本エルダー協会、浜名湖ガーデンパーク、みやこだ自然学校・ひるまのながればし案内人



はまなこ環境活動団体交流会（地球のたまご）



神奈川県の小網代での取組み紹介



各団体からPRや連携の提案がされました

平成27年度浜名湖エコワークショップ

■12月 湖岸のチェックポイント事前調査

平成27年12月10日(木)に浜名湖の西岸(新居浜名湖競艇場付近~正太寺鼻付近の間)を車で事前調査。

湖岸から観察できる調査ポイントとなり得る場所を特定するため、現地を回りながらチェックしていきました。

平成27年12月20日(土)は、浜名湖の東岸(村櫛海岸~内山海岸~館山寺温泉サンビーチ海岸の間)を車で事前調査、確認しました。

これらの事前調査の結果を踏まえて、今後の湖岸の状況調査が可能なポイントやアクセス方法などについてまとめ、正式なフィールドワーク(現地調査)を行うことになりました。

■2月2日(火) 浜名湖の湖岸・湖底の環境調査

今後、環境保全団体や一般企業が浜名湖の環境に関するデータを収集し、浜名湖の変化や状況を認識するための調査方法を検証しました。



2月2日 平成27年度浜名湖湖岸状況調査(海・陸側)



湖岸・湖底の状況を調査したルート、ポイント



礫島は鳥のフンで木々が真っ白に



船上から飛来する野鳥を観察



2月の湖底は春、アマモが生えていた

●湖側からの調査試行・・・遊船を利用
漁師さんの案内で湖の様子をゆっくりと観察しました。

まず村櫛漁港を出発して新幹線を眺めながら新居の競艇場から湖西市側の西岸沿いを北進していきました。松見ヶ浦から三ヶ日の大崎半島沿い、そして館山寺の内浦、庄内半島沿いに南進して湖岸と湖底、周辺の環境を観察しました。

<内容>

- ・湖底の状況(水深、アマモ・アオサ、ヘドロ)
- ・湖岸付近の状況(人工護岸、自然)
- ・飛来する野鳥

●陸側の調査試行

車で浜名湖の東岸~西岸を巡回調査しました。事前調査で確認した湖岸の近くまで寄れる場所で、ゴミや海藻などが滞留しやすいポイントを中心に館山寺~新居~湖西市宇津山正太寺鼻までを廻ってみました。

<内容>

- ・湖岸の状況(アクセス可能な場所)
- ・アマモ・アオサ等やごみなどの漂着物の状況
- ・野鳥の飛来状況(観察)
- ・浜名湖にそそぐ川の河口付近の水質検査実施



湖岸に打上げられている海藻・ごみなどの状況を確認

●野鳥の飛来調査結果

今回のフィールドワークで観察された野鳥の数 4,363羽

うち多かった個体

- ・カワウ 2,178羽
- ・スズガモ 600羽
- ・ホシハジロ 424羽
- ・キンクロハジロ 300羽
- ・ヒドリガモ 294羽
- ・オオバン 120羽

★環境省絶滅危惧種(N.T準) ミサゴ 9羽

★静岡県絶滅危惧種(N.T準) ヤマドリ 1羽



野鳥の会の説明で多くの野鳥が確認

●水質検査の結果

浜名湖にそそぐ川の河口付近でパックテストを実施しました。

- ・NO2: 亜硝酸
- ・PO4: リン酸
- ・NH4: アンモニウム
- ・COD: 化学的酸素要求量
- ・PH

5種類の検査を行い、その結果は右のとおりです。

調査日 2016.02.04

種別	NO2	PO4	NH4	COD	PH	
	mg/L=ppm	mg/L=ppm	mg/L=ppm	mg/L=ppm		
計測時間	2分	5分	5分	6分		
調査場所						
東岸域	村櫛町 入口付近	0.01	0.05	0.20	6	7
	館山寺 船溜まり付近	0.01	0.20	0.20	8	7
	花川(オイスカ高校 西)	0.05	0.20	0.20	8	6
	新川(イオン志都呂店南側)	0.05	0.05	0.20	8	7
西岸域	浜名川 (運動公園前/三つ文字)	0.20	0.10	0.50	7	6
	JR鷺津駅北 (横須賀川)	0.10	0.05	0.20	6	6
	湖西 多目的広場 前 (古見川橋/古見川)	0.50	0.10	0.20	4	6
	" 入出・新所 (五田川橋/一宮川)	0.30	0.50	0.80	8	5
" 入出・新所 (太田川橋/太田川)	0.10	0.10	0.20	4	6	

●湖底のアマモ場やアオサ

村櫛周辺の湖底を観察すると、アマモ場が広がっていましたが、内山海岸~サンビーチ海岸、西岸にはアマモ場は確認できませんでした。

【3月下旬には、湖岸にアマモが・・・】

春の訪れと想定していたら、東岸の内山海岸には、既に「アオサ」がかなりの量で打ち上げられていました。内山海岸付近の護岸にもアオサが寄せられており、アマモも大きく成長していました。



内山海岸で大量のアオサを確認(3/26)

■まとめ

今年度のエコワークショップの目的は、湖岸の状況調査方法を試行することでありました。季節も冬の時期であったので、夏・冬など季節でデータを収集していく必要があります。今後ネットワークの皆さんには参加・協力していただくことになるかと思います。

また、交流会では、人材(後継者を含む)の確保や活動資金を確保していくことが難しく、相互連携により効率的に取り組むことが必要であると思われます。情報発信も大切なことであると感じました。

【はまなご環境ネットワーク事務局から】 団体のイベントや活動情報をお寄せください。

Email info@shizuoka-t.net 電話 053-458-3480 FAX 053-455-0328
ブログ http://kankyo.hamazo.tv/ FaceBook こちらのQRコードを読んで下さい

